

# ハワイ、モロカイ島の 靈氣に触れて

合気会評議員 村井謙介 七段

二〇〇九年十月二日モロカイ島のフリーファ空港の駐車場に集合。二人のボランティアガイドの車と二台の4WDの車が一路カマコウブリザーブに向かう、竹内弘男さん（フレンドリーアイランド合気道道場長）と私以外はカナダ、アメリカから来たツアー客総勢十人。

一般道を抜けると火山灰のデコボコ道。車は緩やかな坂を上がり標高一〇〇〇メートル近くの駐車場に着い



ハワイ、モロカイ島のフレンドリーアイランド合気道道場長の竹内弘男さん（前列右から2人目）に本部道場で出会ったことがきっかけで、筆者は（前列右から3人目）モロカイ島を訪れ、ともに稽古をすることになった

た頃は雨。下界はあれほど快晴だったのに、霧と雨が我々を包み込む。ひと月に一回、第一土曜日だけのネイチャリングツアー、しかも雨季をひかえた十月が最後のチャンスと思い、二月に訪れたばかりのこの島を再び訪れた。

歩き始める前に雨具に身を包み、設置された一枚の板に滑り止めのスチールメッシュを貼り付けた通路を、ガイドを先頭に進む。単調だった林が森に、木の枝や幹にはびっしり苔が張り付き羊歯や着生植物が目立つようになる。足元も水溜りが増え苔や木生羊歯も

目立つようになる。ガイドは自然保護区域の植生を守るボランティアでハワイ固有の植物を保護観察し、外来種を駆除する仕事をしている。晴れていれば海辺に迫るがけにかか

る大滝や青く輝く大海原が展望されるのだが、常に雨と霧に包まれめったに見られないという。山頂は日本の尾瀬ヶ原を思わせる湿地帯で、そこに蓄えられた水は川となり、滝となって海へ注ぐ。



ネイチャリングツアー中の竹内さん

二月に訪れた時、島の東端の原住民が多く住む地域にあるハラワバレーに行ってきた。原住民の長老とその息子のガイドで溪をさかのぼり、靈氣漂う森を抜け、大きな滝のところまで行ってきた。途中、原住民が祈りをささげる場所とか、墓地とかがあり、何か心休まる日本の田舎の原風景に良く似ていた。

モロカイ島は東に豊かな森を蓄え、年中バナナ、パイアヤ、マンゴウ等が実っている原住民が多く住む居住区で、西は溶岩の赤い台地がわずかに緑をのせ、サバンナのように低い木と赤い裸地。

西の端が竹内さんが住んでいるコンドミニアムの集合体で、管理された緑と美しい海岸が開示されている。

そして島の中心の平らな大地に飛行場やコーヒー園、マカデミアンナッツ

の農園、ブルメリアの花の木の農園等生産可能な地域、その南の海岸にお店や学校、ホテル、公共施設等生活に必要な物は一通り揃う。その中に、SOTO TEMPLE（曹洞宗の禅寺）がある。そこを竹内氏が今年の夏から借りて週三回合気道の稽古を行っている（それまでは近くのシニアセンターの集会所を借りていた）。

島の西、三分の一はモロカイランチという企業が所有し、ホテル、ゴルフ場、コンドミニウム、そして牧場、プライベートビーチといったハワイの他の島でも展開されるリゾート開発を進めていたが、一年前に撤退。

今では東南アジアの企業が所有しているというが、一切手付かずで、放置されている。たった一年で文明が自然の中にのみこまれていった。



白い砂浜にはアザラシが訪れることも

ゴルフ場は見る影もなく、芝生は伸びきり雑草が混じり、その起伏でかろうじてスタートホール、グリーン、バンカーが識別できる程度でコンドミニアムや海岸の木造ホテルは荒れ果て、形は残っているが復元不可能な状態になっている。

しかし白い砂浜、サーファー好みの大きな波、透明な海の水、照りつける太陽、常に吹き付ける風、それに耐えながら一方方向に傾いて生えている樹木、小さな野の花、生き残ったハイビスカス、ブーゲンビリア、ココヤシ等元気に育ち、まるで宮崎アニメで見る天空のラピュタの情景を思い起こされる。

竹内氏の住んでいるコンドミニアム群はカナダの開発会社で作ったもので



筆者。モロカイ島の大自然をバックに

今でもカナダやアメリカの金持ちの別荘となっている、コンドミニアムには冷房がなくともさわやかな風が吹きぬけ、本人達以外一家族が泊まれるゆとり空間がある、広いテラスでは満天の星を眺めながら、ビールを楽しむ時間もある。

竹内氏は毎朝、木刀を抱えて、秘密の海岸の岩山に行き木刀の素振りを行う以上するという、いわば聖地、私もそこに案内され、稜の深呼吸、繰り返ししてみると、巖かでさわやかな気分になってきた。大海原を前にして岩山に立つと自然に天と地の気の流れを感じるようになる。

モロカイ島を二度訪問し、強く感じたことは何故ハワイの原住民が多く住み、世界の各地から文明の荒廃を感じた人達が、ヒーリングの聖地として集まってくるのか、沖には鯨の親子も集まってくる、そこには陰と陽の両極の磁場があるように思う。

島の東側のいつも雨と霧に包まれたカマコウを中心とした地域を「陰」とすれば、西側の太陽と風と砂浜と赤い大地を「陽」とし、その磁場の中心にSOTO TEMPLE(曹洞宗の禅寺)がある、そこを合気道の修行の場と定めたのも偶然ではないと思う。

竹内氏は東京都出身ニューヨークの国連本部事務局で国際公務員として

二十七年間勤め、ニューヨークで山田嘉光先生の六段のお弟子さんに十年間合気道を学んだ。

三年前退職し、ハワイの島々探索し、未だに近代文明に汚染されず、観光化を拒み続け、大自然が美しく、ハワイ伝統文化を大切に守りとうしているモロカイ島が気に入るその磁場に引き寄せられるようにモロカイ島に住むようになった。そこには合気道の道場が無かったので稽古を続けるため自分でフレンドリーアイランド合気道道場を開く。

今は熱心な三人の稽古人とその家族を中心に週三回の稽古をしているが、彼らを中心に足固めをし、島の青少年に合気道の魅力を伝え、その親の原住民の心の中に入って行きたいと思っている。

二〇〇八年三月、本部道場に一月月通った時、私の求めている合気道と共鳴し是非モロカイ島で一緒に稽古をしましょうということになり、二月と十月竹内氏のコンドミアウムにお世話になりながら一週間ずつ滞在し稽古を重ねました。いずれ島を飛び出す若者に、しなやかな気の流れ、ゆるぎない合気の「むすび」陰陽を感じ取る感性、肉体を鍛え汗をかく中で体得してもらいたいと願っています。

合気道開祖の求める世界平和へつな

が一助でありたいと熱く語る仲間、今は小さな灯火だけど、闇夜の中で光り輝いている、そんな仲間を私は出来る限り援助したいと思っている、二人で酒を酌み交わすモロカイの夜は満月、やしのシルエットの向こうで海が銀色に輝いていた。

モロカイ島は、オアフ島とマウイ島の中間にあり、オアフ島のホノルルから飛行機で三十分のところにある東西に細長い人口七〇〇〇人の島です。ハワイで一番多くの原住民が住んでいます、手付かずの自然が残る素朴な島、フレンドリーアイランドとも言われている。



フレンドリーアイランド道場では、熱心な3人の会員とその家族を中心に週3回の稽古に励んでいる